

# WHO ファクトシート

## 新生児：死亡率を下げるには

### Newborns: reducing mortality

2018年9月28日

#### 重要な事実

- ・世界で約250万人の子供が生後1か月以内に死亡している。平均すれば毎日7000人の新生児が死亡している勘定になる。生まれたその日のうちに100万人が死亡し、続く生後6日以内にさらに100万人が死亡している。
- ・子どもの死亡リスクは生後28日までが最も高い。2017年には、5歳未満の子どもの死亡のうち、生まれて最初の28日間（新生児期）の新生児、赤ちゃんが47%を占めていた。その割合は1990年の40%から上昇している。
- ・生後28日以内に死亡する子どもは、出産直後の質の悪い、あるいは未熟な手当が原因となる病気や状態に苦しんでいる。
- ・2017年の5歳未満死亡の主原因は、早産合併症、肺炎、腹腔内関連事象、下痢症、新生児敗血症及びマラリアである。
- ・専門助産師が主導するケア（MLCC）を継続的に受けている女性は、教育を受け、国際的な基準で管理されており、乳児を失うリスクは16%低く、早産のリスクは24%少なくなっている。

#### © World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Alcohol          ファクトシート原文は [こちら](#)